

【場所・面積】鳥取県西伯郡南部町、18.64ha

【管理目的】

- 里地里山の保全

【サイト概要】

- 環境省のホームページに「里地里山は原生的な自然と都市との中間に位置し、集落とそれを取り巻く二次林、それらと混在する農地、ため池、草原などで構成される地域」と書かれている。当地は山地と都市との境界に位置し、集落を取り巻く、田、ため池、人工林、雑木林から構成されるまさに里地里山である。
- 農林業など土地所有者たちの暮らしと営みのなかで維持管理されてきた。

【サイト周辺の状況】

- 南部町は鳥取県の西側に位置し、鳥取県第2の都市米子市に隣接する。大山（だいせん）の西側のすそ野にあって、一級河川日野川が南部町を避けるように流れている。水不足に陥りやすい場所であった為、町内には多くのため池が造られた。
- 米子市からサイトに至るまでの国道沿いに賀祥ダムと緑水湖がある。緑水湖の周辺は緑水園、バンガロー、オートキャンプ場が整備されて観光・レジャーが楽しめる場所になっている。
- サイトは谷沿いの道に入って突き当りの集落にある。冬は積雪が多い。社会福祉法人伯耆の国が運営する「いくらの郷」が自然体験を通じて社会になじめない若者の手助けを行っている。

【土地利用の変遷】

- 70年以上、おそらく100年を超えて、大きな土地利用の変遷は無かった。
- 使われなくなった田が放置されて草木が生い茂る場所となっていた。2020年に草木を刈って水を張り、田んぼビオトープとして生き物調査体験の場所になっている。

【活動のアピールポイント】

- 20年近く南部町をフィールドに活動する自然観察指導員の活躍と、重要里地里山の指定によって、町内の生物多様性が見直されている。
- いくらの郷が自然体験を社会になじめない若者の社会復帰に活用し、2020年から一般社団法人里山生物多様性プロジェクトが田んぼビオトープを通じた生物多様性の保全と地域振興を行っている。

区域全体図・写真①



区域全体図・写真②



【生物多様性の価値、管理内容およびモニタリングの概要(1/2)】

生物多様性の価値		生物多様性の価値の概況	管理内容	モニタリング概要
(1)	 【棚田】	重要里地里山「南部町の里地里山」にあって、農林業を通じた環境保全が行われている。	人工林は間伐が終わり、雑木林とともに自然のままの管理がされている。ため池は水を利用する土地管理者によって周辺の草刈りと水位の管理が行われている。 使用される田は3月から11月まで5回程度の草刈りが行われている。	許可していない人の立ち入りや、土地に工作する者が無いか、イノシシ等の農業害獣による農作物への被害がないか、土砂崩れなど土地の異常が無いか、倒木など地上にあるものに異常がないかを日常的に巡視している。
(3)	 【人工林】	農地やため池、雑木林、人工林などによってモザイク状の土地利用が維持されている。 ・重要里地里山「南部町の里地里山」にあって、農地やため池に里地里山に特徴的な種が数多見られる。	(1) と同じ	(1) と同じ
(4)	 【雑木林】	植物において一部、侵略的外来種の侵入が見られるものの、動物においては在来種を中心とした生態系が保たれている。 生態系サービスとして農林業に係る生産場所、ダムの水源および再生可能エネルギーの発電、生き物観察会・自然体験会・祭りの場所としての価値がある。	(1) と同じ	生き物観察会で出現した生物種の種名を継続して記録する予定である。

【生物多様性の価値、管理内容およびモニタリングの概要(2/2)】

生物多様性の価値	生物多様性の価値の概況	管理内容	モニタリング概要
(5)  【虫送りの火祭り】	2019年、2020年、2022年に地域共生実現拠点いくらの郷が棚田を会場として「虫送り」の火祭り（たいまつ行事）を行った。 「虫送り」は全国で稲の虫害を防ぐために行われてきた。	会場となる田は（1）と同じ	（1）と同じ
(6)  【生き物観察会】	人工的に作られた止水環境が里地里山に特徴的な生き物の生息環境になっている。生き物観察会を通じて希少な生き物も確認されている。	（1）と同じ	生き物観察会で出現した生物種の種名を継続して記録する予定である
(8)  【田んぼビオトープ】	人工的に作られた止水環境が両生類や水生昆虫など里地里山に特徴的な生き物の貴重な産卵場所になっている。	（1）と同じ	生き物観察会で出現した生物種の種名を継続して記録する予定である